

令和7年度 市岡中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

令和7年度 市岡中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア		
			国語	数学	国語	数学	理科		
3年	学校	145	52	40	6.6	9.7	学校		468
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市		489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国		503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	144	64.3	50.9	49.4	42.5	50.0	5.2	4.9	11.6	7.9	9.7
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	119	70.3	54.4	62.2	53.0	54.9	3.6	2.9	7.3	2.5	4.8
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月9日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	178	57.1	59.1	50.3	53.5	56.7	8.8	2.6	8.2	2.7	4.7
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月9日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はA問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	140	113.2	97.3	149.0	104.3
10月23日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

令和7年度 市岡中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 市岡中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	145	52	40	6.6	9.7	学校	468
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	144	64.3	50.9	49.4	42.5	50.0	5.2	4.9	11.6	7.9	9.7
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	119	70.3	54.4	62.2	53.0	54.9	3.6	2.9	7.3	2.5	4.8
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月9日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	178	57.1	59.1	50.3	53.5	56.7	8.8	2.6	8.2	2.7	4.7
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月9日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はA問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	140	113.2	97.3	149.0	104.3
10月23日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	143	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	28.56	25.54	43.09	53.42	79.80		8.09	190.15	20.92	41.56
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	425.49		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	409.25		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	23.11	21.38	44.35	47.64	50.61		9.03	166.00	13.49	48.30
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	318.64		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	309.66		8.97	166.44	12.43	47.58

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(2年生)

＜国語＞平均点の対比が1.09(+5.8ポイント)であり、昨年度の1.09同様の結果であった。特に「思考・判断・表現」の観点においては、+5.9ポイントと上回っていた。「言葉の特徴や使い方に関する項目」は+0.2ポイントであったため、さらなる定着をはかりたい。

＜数学＞平均点の対比が1.13(+7.2ポイント)であり、昨年度の対比1.12と比較し少し上がった。分類別で見ると、全分野で大阪府の平均点を上回っており、特に「知識・技能」においては+4ポイントの結果となった。得点集計値をみると、70～74点の層が全生徒の11.6%と一番多く、中央値も65点と全体的に上昇傾向にある。記述式問題については大阪府平均より0.3ポイントのため重点的に対策していく。

＜理科＞平均点の対比が1.13(+6.7ポイント)であり、昨年度の対比0.94と比較してみると平均を上回った。しかし、この学年の1年時のチャレンジテストの結果では、対市比で+9.2ポイントだったのに対し対府比ではあるが、+6.7ポイントと下がっている。得点集計地を見ると2極化が見られ、20～30点台の層の学力向上をしていく必要があると考える。

＜社会＞平均点の対比が1.23(+10.1ポイント)であり、昨年度の対比1.12と比較し、かなり向上した。「地理的分野」「知識・技能」「選択式」において+5ポイント以上大阪府の平均を上回っている。

＜英語＞平均点の対比が1.06(+3.1ポイント)であり、昨年度の対比1.12(+7.3ポイント)と比較し、大きく下回ってしまった。全分野で大阪府の平均を上回ったが、「聞くこと」の分野が、他の分野と比べ府平均との差がなかった。今後は、習熟度別授業を行い、中間層の学力向上に向けて取り組んでいく。

【今後に向けて】

＜国語＞ことわざ、故事成語、四字熟語などの帯小テストを継続して行う。文章だけでなく、表やグラフからの情報を読み取り、文章と関連付けて自分の考えを書けるように、教科書を活用しながら対策をしていく。

＜数学＞記述式問題に対応するために、授業の中で教科書やワークを使って、問題演習に取り組む活動を増やし、文章で表現する力を伸ばしていく。また、基礎力が身につけてきた生徒が増えてきたため、入試にも対応できるように応用問題を取り入れた授業もしていく。

＜理科＞今回の問題では、血液の各部のはたらき、マグネシウムと結びつく酸素の割合、天気図にある気圧、のところが府平均を下回った。この分野の復習をしていきたい。また、定着させたものが、時間の経過とともに忘れられてしまうので再度、復習をしていく。

＜社会＞記述式の問題に対応するために、授業の中で教科書やワークを使って、問題演習に取り組む活動を増やし、文章で表現する力を伸ばしていく。

＜英語＞今後は、聞く活動を増やしていき、来年度の入試に向けて基礎力を上げていく。また、長文読解の時間も確保し、応用力につなげていくように努める。

令和7年度 市岡中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(1年生)

＜国語＞平均点の対府比が－6ポイントであった。いずれの分野においても大阪市の平均点を下回っており、特に「思考・判断・表現」において、大きく下回っている。一方、「知識・技能」における「我が国の言語文化に関する事項」に関しては、大阪府の平均点とおおむね同じような値となっていた。

今後は、基礎的な学力が定着するよう様々な語句に触れ、自分の考えを言語化する練習を繰り返していく必要がある。

＜数学＞平均点の対府比が0.89(－6.4ポイント)であった。いずれの分野においても大阪市の平均点を下回っており、特に「知識・技能」において、大きく下回っている。今後は、基礎的な学力が定着するように復習と反復練習を繰り返していく必要性を感じる。

＜理科＞大阪市の平均から9.5ポイント低い結果となった。分野ごとに分析すると、エネルギー分野では3.6ポイント低く、生命分野では0.9ポイント高い。その中でも、光の分野はかなり低くなっており、日常生活と学習内容の連携をしていく必要がある。

＜社会＞大阪市の平均を0.8ポイント上回ることができた。特に知識・技能の観点では大阪市の平均を2.3ポイント上回り、知識理解の定着、グラフや資料の読み取り技能の力がついてきていることがわかる。特に「世界の姿」「日本の姿」の正答率が大阪市よりかなり高く、全体像を把握することができた。しかし、世界の諸地域(アジアの暮らし)は正答率が低く、具体的な事象の理解度は低かった。

＜英語＞平均点の対府比が、0.86(－8.5ポイント)であった。基礎的な語彙や文法事項の定着に加え、英文を読み取り内容を理解する力に課題が見られた。分布図を見ていると、20点台・50点台・70点台で山ができています。発展的な学力を向上させるために、習熟度別授業をより充実したものとしていく。

【今後に向けて】

＜国語＞書く力を向上させるために、授業内で自分の考えを書く問題を増やし、根拠を明らかにして記述できるようにしていく。また、現在取り組んでいる常用漢字や語句の小テストも継続し、知識を身につけさせたい。

＜数学＞基礎的な学力を定着させるために、計算や各単元の基礎的な問題の反復練習にとりくみ、学力の向上に努めたい。

＜理科＞日常生活との連携を授業で言っていく必要がある。さらに知識の定着を目指すために小テストの定期的な実施を行っていききたい。

＜社会＞思考・判断・表現の観点は大阪市の平均より3.4ポイント下回っている。資料をよみとったものを文章として表現したり資料から推測する力を養えるような授業を展開したり、ワークなどの記述式解答をしっかりと考えて書くように指導していききたい。

＜英語＞今後は、基礎的な語彙・文法の定着をより重視するとともに、既習事項を活用して読む・書く活動を授業の中で継続的に取り入れていきたい。